

Campus Today



松本歯科大学

発行所 学校法人 松本歯科大学
長野県塩尻市広丘郷原1780
☎ (0263) 52-3100
www.mdu.ac.jp
1部60円

病院に口腔インプラントセンター本格オープン

地域インプラントコミュニティの実現に向けて

9月より本学病院2F特別専門外来内に口腔インプラントセンターが本格的にオープンした。センター長は矢島安朝特任教授が務める。これまで口腔インプラント科として診療が行われてきたが、その規模を拡大し、大学病院ならではの高いレベルのインプラント治療をめざす。

インプラントセンターは、植田章夫 A)。さらに、インプラントサポート特任教授（インプラント科）、各務秀明教授（口腔外科）、樋口大輔教授（補綴科・歯科麻酔科・保存科・補綴科・健康科）、矢島センター長（筆者）と、山口葉子講師、藤井政樹講師、笠原隼男講師らインプラント・コアメンバーを中心に、各科のインプラントメンバー（自分の専門科目だけでなく、インプラントの臨床をも行い、将来的にインプラント専門医をめざす医局員）が協力し合って共同担当制を取り、それぞれの専門性を生かした高度な歯科医療、インプラント治療を実現する（図割を担う）ことである。そのためには、



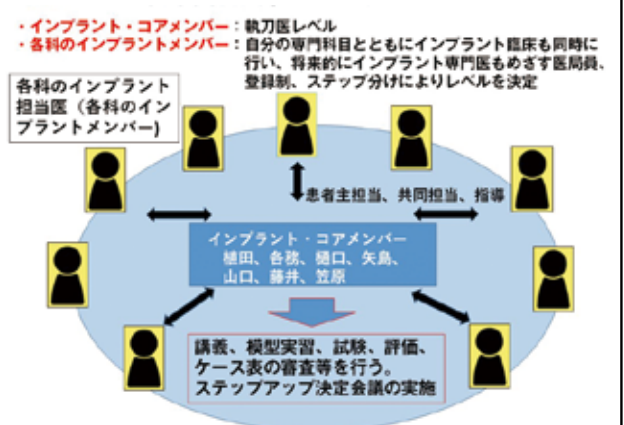
口腔インプラントセンターのコア・メンバー（前列左から樋口教授、植田教授、矢島センター長、各務教授、後列左から笠原講師、藤井講師、山口講師）と、担当の丸山歯科衛生士、西窪歯科衛生士

- ① 医局員教育システムの構築および
- ② 地域の歯科診療所との連携が重要である。

教育に関して

は、医局員の實力にあったステップを決定し、ステップアップのためのタスクを示し、これを達成したうえで、1年に1度のステップアップ試験に合格する必要がある。見学から始まり執刀医までの

図 A 松本歯科大学インプラントチーム

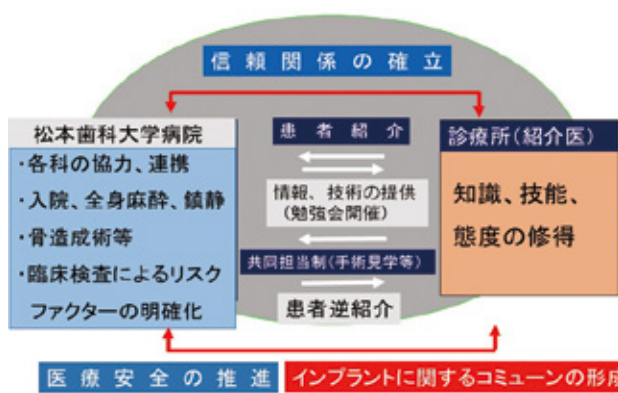


あり、本学の柔軟性をあらわす誇るべき専門医育成システムとなるであろう。

一方、地域の歯科診療所との医療連携は図Bのようなシステム構築を目指している。まず診療所との十分な信頼関係を確立するためには、私たちが紹介いただいた患者さんの治療を安全・確実に実行することが重要である。さらに地域の先生方と一緒に勉強会、テーブルクリニック等を企画・実施し、インプラント治療に関する最新の情報の収集や基本的なエビデンスの

これらが実行可能となれば、この松本平にインプラント治療に関する一つのコミュニティが形成され、本学インプラントセンターはまさしくこの地域のインプラントセンターの役割を果たすことができるのである。このことが最大の目標である。

図 B 大学病院の特徴を活かし地域のインプラント治療の中心となる



SD研修会で国際医療福祉大学野田光彦教授が講演 「新型コロナウイルス感染症と糖尿病・肥満」

本学教職員が新型コロナウイルス感染症（COVID-19）について正しい知識を身につけて感染予防に努め、安全な学習環境と医療環境を構築することを目的としたSD研修会が9月17日（金）、本館601教室で開催された。国際医療福祉大学・市川病院の野田光彦教授をお招きして、新型コロナウイルス感染症と糖尿病・肥満の関係について学んだ。

野田先生は2017年に一般

社団法人日本糖尿病・生活習慣病ヒューマンデータ学会を発足させ、代表理事に就任。糖尿病や生活習慣病の研究における「人間データのデータ」を重視し、それらに資するエビデンス（実証）に依拠した正しい解釈による予防や治療を広めるために尽力されている。

研修会では、糖尿病患者にとって新型コロナウイルス感染症がどのような影響を及ぼすかを、公表された論文データなど

に基づいて解説された。糖尿病があると感染率自体には大きく影響することはないが、重症化や死亡のリスクが2〜2.5倍に高まることが報告されている。また肥満も新型コロナウイルス感染症を重症化させやすい可能性があると指摘。予防に関しては、本人だけでなく家族も含めマスクの着用や手洗いの励行が呼吸器感染症ウイルスの広がりの減少に有効であると検証されたことを明らかにした。

さらに、感染第5波がピークを越えた現状に触れ、ワクチン効果や、感染拡大と行動抑制の繰り返し、ウイルスの弱毒化などによって収束の可能性はある

が、「いずれにしろ感染拡大と収束の理由をしっかりと分析することが感染症学・感染症疫学の課題として重要」との私見を述べられた。

講演後は、活発な質疑応答が行われた。



講演する野田先生

第6学年 自主勉強会を毎週開催 学年委員会が主導し学力向上めざす



同級生の質問に答える新木委員長（中央）

第6学年の学年委員会有志（新木太朗、植野裕司、春日梢、濱田晃正）は7月19日（月）より、6年生全員の学力向上を目指して独自の勉強会を開始した。近年の本学における歯科医師国家試験合格者の大躍進に続いていきたいという願いのもと、学生食堂カフェテリア2階にて月・水・木曜日の週3日、夜7時から2時間実施している。

第6学年が自主勉強会を開くようになったのは、今年卒業した44期生の先輩方の歯科医師国家試験全国第2位の好成績に触発され、自分たちもそれに続くという思いから。40期生の先輩方が行っていた自主勉強会を復活させ、学年全体を学力の底上げを図る。

勉強会への参加は自由で、基本的に自習の形式をとっているが、参加者が講義や自習の中で生じた疑問や課題に関しては、新木卒業準備委員会委員長をはじめ学年委員が分かる範囲で答えている。勉強会の名は、建学の理念にも謳われている佐久間象山先生が江戸で開いていた私塾の名前から「五月塾」とした。ひとり勉強していると、ついつい休憩がてら携帯電話をみる時間が増えたり、夕食の際に遠出して舌を肥やしたりと、知らず知らずのうちに貴重な時間を浪費してしまうことが多い。そこで、勉強会を通して自らを律し、勉強する時間を増やしていければと願っている。

毎回の試験で成果が上がっている学生の「勉強のコツ」を皆が共有することで、不要な深追いや脱線を防ぎ、疑問を早期解決して勉強の効率化を狙う。当面の目標であった、8月に実施された模擬試験では全国平均を超えることができた。9月からはさらなるステップアップを図っている。

今までにない試みのため、手探りで運営しているが、勉強会の開催を伝え聞いた先生方が顔を出して、学生の質問に答えてくたさるシーンも増えている。先生方のご協力もいただきながら、今年度の卒業試験、歯科医師国家試験合格者を増やすという成果に繋げたい。私達の成功ならびに失敗を礎に、次の世代がより成熟した勉強会を開催してくれることを願っている。

この勉強会に限らず、今後とも新木委員長を中心に6学年全員が一致団結して、ひとりでも多くの歯科医師誕生を目指していく。私たちが受験する第115回歯科医師国家試験は2022年1月29日（土）、本学創立50周年記念日に行われる。それまで精一杯走り続けたい。

（6学年卒業準備委員会 植野裕司）

医療人の自覚を持ち規律を守って寮生活を キャンパスイン新入生棟退去等説明会

本学の学生寮であるキャンパスインは、広大な敷地に11棟が配置され、四季の移ろいを肌で感じるができる学び舎である。新入生棟と高学年棟に分かれたワンルーム形式の部屋が368室あり、各棟には自習室が完備しており、夜遅くまで明かりが灯っている。

9月10日（金）、キャンパスイン新入生棟に同居している新入生の学生を対象に、新入生棟退去等についての説明会がキャンパスイン101教室で開催された。

説明会では、支援センター職員が退去するまでのスケジュールや高学年棟への入寮等について説明した。

塩尻志学館高校3年生の齋藤園子さんは、同校の授業・総合研究発表のテーマに「スポーツと歯の関係」を選び、9月27日（月）に本学に取材に訪れた。

志学館高校の生徒が「スポーツと歯の関係」を取材 小児歯科学講座・正村正仁准教授が解説



超音波装置

被曝線量指標であるCTDIvol (mGy) やDLP (mGycm) のデータ解析をして、最新の診断参考レベル (DRL) との検証を行いました。当院でのヘリカルCT画像の画質は最適に保たれている事を確認しています。

MR Iでは、腫瘍や嚢胞、骨髄炎や顎関節円板の転位等を診ています。MR I装置は、騒音が発生するのが常ですが、静音化機能のある新規MR I（画像向上、画像アーチファクト低減技術、撮像・画像処理時間短縮機能、動きの抑制機能）が今後導入予定です。歯科放射線科一同、更なる診断力の向上を目指し日々邁進していく所存です。

ヘリカルCTでは、頭頸部腫瘍、嚢胞、炎症や外傷等の読影のみならず、被ばくの管理も行っています。2020年度から診療放射線安全管理に基づいたヘリカルCT検査における線量の最適化においても、CTの

病院だより vol.35

シリーズ 診療部門紹介②

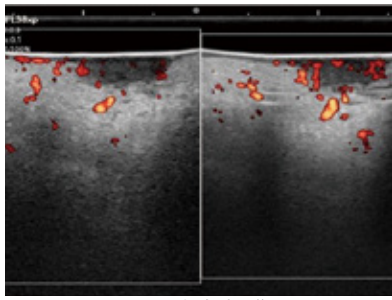
歯科放射線科

単純X線検査のデンタルX線撮影法やパノラマX線撮影法はもとより、特殊画像検査のコンピュータ断層撮影法（CT）、磁気共鳴撮像法（MRI）、歯科用コーンビームCT（CBCCT）および超音波検査法が主たる検査です。デンタルやパノラマX線撮影法では、う蝕、慢性歯周炎、根尖性歯周炎、埋伏歯等、日常多くみられる歯科疾患から嚢胞、腫瘍や顎関節等の読影、診断をしています。

特にパノラマX線写真では、歯科疾患病変の読影に加えて、下顎骨下縁皮質の形態分類から骨粗鬆症のスクリーニングをしています。これは、当科長が第一人者であり欧米でも高く評価された、歯科医師が骨粗鬆症リスクを明らかにする画期的手法です。この手法は骨粗鬆症スクリーニングに有用であることは既に認知されており、早期発見・早期治療に役立っています。本院でも更なる医科歯科連携を目



口腔がん患者さんの超音波検査



舌がん超音波画像

現在、田口明科長（日本歯科放射線学会指導医・専門医）を中心に、専門医3人、認定医1人、期待のホープ1人（日本口腔診断学会認定医・日本口腔インプラント学会専修医）の総勢6人体制で行っています。



質問に答える正村准教授（右）

齋藤さんは、マウスガードを装着してプレーするスポーツ選手が増えている事例を挙げ、その有効性について質問した。正村准教授は「マウスガードの装着は歯や口腔軟組織・顎関節を保護し、脳震盪の予防・軽症化のほか、歯の擦り減りも防止します。また相手選手に対する外傷予防にも有効です。装着による心理的効果も見逃せません。安心してプレーに専念できるため積極性が増し、それによりパフォーマンスの向上が期待できるかもしれません」と答えた。

また、歯並びと運動能力との関係については、噛み合わせがよいと、体のバランスが整えられ、高いパフォーマンスを引き出せる可能性があることを説明し、歯がスポーツと深い関係があることを伝えた。

齋藤さんは後日、取材した内容をまとめ、同校にて発表する。

